

第 41 回土木計画学研究発表会（春大会）：2010.6.5～6（名古屋工業大学）  
企画セッション討議内容の記録

セッション名： 地域防災システム（2）	
日付： 6 月 6 日（日）曜日，セッション時間： 10：30 ～ 12：00	
オーガナイザー名（所属）： 多々納 裕一	
討 議 内 容	(裏面に個別論文の講評を記述できる欄を設けております．必要に応じてお使いください.)

<p>(発表番号)                    発表者名 (所属): 鈴木猛康 (山梨大)</p> <p>① 地域 SNS は地域間の情報共有にも役立つのでは? → そのとおり. 本システムでも google map を使って共有化を実現している.</p> <p>② 入力する人は高齢者で, PC 等になれてないのでは? → ユーザーインターフェイスの工夫をしている.</p>
<p>(発表番号)                    発表者名 (所属): 山田文彦 (熊本大)</p> <p>① 要支援者との避難所要時間はどのような理由で長くなるのか? → 車イスを押しての避難には意外に時間がかかる. この種の実験で, データを蓄積していくことが大切である.</p>
<p>(発表番号)                    発表者名 (所属): 桑沢敬行 (社会技術研究所)</p> <p>① 他の車両はどう入れているのか? → 平常時の12時間交通量から</p> <p>② 発生時刻はどう想定? → 全員が家にいる (夜を想定)</p> <p>③ 本当に避難するのか → アンケートをベースに避難率を設定している.</p>
<p>(発表番号)                    発表者名 (所属): 佐々木康二 (岐阜大学)</p> <p>① 班のサイズ, また組織は? → 10世帯が平均, バラツキは上の地区</p> <p>② なぜ地区内での調整をしていないのか? → 今後考慮したい</p> <p>③ 班同士の間関係はどうか?</p>
<p>(発表番号)                    発表者名 (所属): 児玉真 (社会技術研究所)</p> <p>① 広域避難には, 親類縁者の存在がきくのでは? → 調査には入っている. 今後分析する.</p> <p>② 住居の種類によって意向は異なるのではないかと? → 高潮は長期にわたって海水がとどまるという特性を考慮し, たとえ高層マンションであっても, 避難対象者とすることが必要であると判断</p>
<p>(発表番号)                    発表者名 (所属): 前川貴哉 (立命館大学大学院)</p> <p>① リンクのキャパシティは? → 今回は考慮していない</p> <p>② 東山は活動層が多い. そもそも避難場所は安全か? → 円山公園は公園なので, 建物のある社寺は危険かもしれない. だがスペースの方が大切だと思う (司会)</p>
<p>(発表番号)                    発表者名 (所属): 畑山満則 (京都大学防災研究所)</p> <p>① ハザードマップを有償で配布するなど, むしろコストを住民に意識の向上が図れるのではないかと? → タダのものは, 信頼性が低いといわれる. 今後考えたい.</p>
<p>(発表番号)                    発表者名 (所属):</p>
<p>(発表番号)                    発表者名 (所属):</p>

